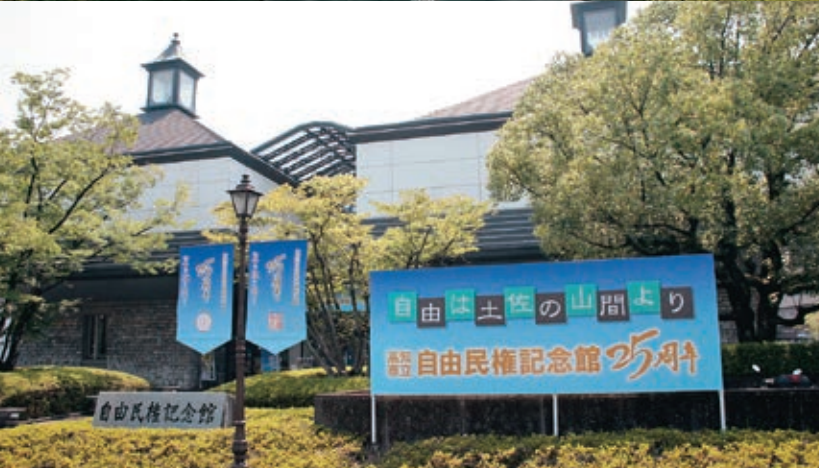


自由のともび

JIYU NO TOMOSHIBI



VOL. 79

2015 September

自由は土佐の山間より
25周年
自由民権記念館

- 自由民権記念館25周年イベント
- 「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛展」
- 「終戦70年の日を迎えて」
- 平成27年度 夏休み子ども歴史教室の報告

リレーエッセイ

変わらぬご支援を

高知市立自由民権記念館が、二五周年を迎えることができましたのは、多くの市民・県民の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。

高知市は戦災や昭和南海地震で甚大な被害を受けました。そして、戦後復興の中で、文化面では図書館と公民館で再出発いたしました。

その後、高度経済成長を経て豊かになると、全国各地に文化施設が設置されるようになりました。しかし、高知市は昭和四五年、五〇年、五一年の大水害などで、都市防災のためのインフラ整備に重点を置かざるを得ない状況が続き、文化施設の設置は遅れていました。

平成元年の高知市制一〇〇周年を契機に高知市にも新しい文化施設の建設を、という機運が盛り上がってきました。ホール・ギャラリー・博物館・美術館など、当時仮に市民投票をすれば、「自由民権記念館」はトップではなかったかもしれませんが、多様な要望の中で、高知市として、「自由民権記念館」を選択した当時の横山市長に敬意を表します。

「自由は土佐の山間より」と言われるように、土佐の自由民権運動は日本の民主主義を推進する大きな役割を果たしました。先人のこの貴重な足跡を明らかにし、次世代に引き継いでいくことは、私たちの大切な責務です。

この二五年間、自由民権記念館は資料の収集、保存、展示をはじめ様々な事業を推進し、多くの成果をあげてきていると自負していますが、まだまだ力不足のところもあるかと思えます。これからも自由民権記念館は全国に発信する活動を続けてまいります。どうか、これまでと変わらぬご支援をお願いいたします。

高知市長 岡崎 誠也

高知市立自由民権記念館 25周年イベント

年間を通じて開催する行事の中から、上半期の主なイベントを報告します。8月22日からは25周年記念展示「路面電車が走る街・高知写真ハネル展」を開催しています。また、最終面にはこれからの行事予定を掲載しています。是非、ご来館ください。

25周年記念式典

◆日時 4月4日(土)午前10時
◆会場 1階民権ホール

当館は1990(平成2)年4月1日に、高知市制100周年の記念施設として開館しました。以来、多くの方々を支えられ、おかげ様で2015(平成27)年4月1日に25周年を迎えることができました。

25周年記念式典では、自由民権記念館友の会岡林登志郎会長と高知ミュージアムネットワークから渡部淳土佐山内家宝資料館長よりご祝辞をいただきました。

また、自由民権ゆかりの芸能として、林靈山氏による「川上音二郎のオッペケペー」や、高知県民謡おしどり会の皆さんによる「世しや武士」「民権かぞへ歌」、そして、当館館長による記念講演「憲政之祖国・土佐―自由民権運動から学ぶ―」などが行われました。



館長記念講演



林靈山氏
「川上音二郎の
オッペケペー」



高知県民謡おしどり会の皆さん



奥村多喜衛生誕150周年記念事業 「ハワイに高知城をたてた男 ―奥村多喜衛展―

◆会期 5月9日(土)～6月28日(日)
◆会場 1階自由ギャラリー
●主催 「ハワイに高知城をたてた男―奥村多喜衛展実行委員会
高知市立自由民権記念館

今年、奥村多喜衛の生誕150周年となります。奥村は、土佐藩士の家に生まれ、自由民権運動に関わった後、片岡健吉の感化を受け、クリスチャンとなります。キリスト教の伝道者として、19世紀末にハワイへ渡った後は、日本人幼稚園や小学校、日本人慈善病院の設立等によってハワイ日系人社会の基盤作りを行う一方、排日予防啓発運動や日系二世の二重国籍離脱運動を展開するなど、ハワイ日系人社会のために生涯を捧げ、「サムライ牧師」と呼ばれました。

また、奥村は日米関係が次第に緊迫化する1932(昭和7)年に、日本人を励まし、ホノルルに美観を添えるため、高知城を模したデザインのマキキ聖城基督教会を建設しました。この教会は、全米最大の日系教会として、今日も大勢のハワイ日系人の心の拠りどころであると同時に、ハワイを訪れる高知の老若男女を温かく迎え入れる第二の高知城となっています。

展示会では、こうした奥村の生涯と業績を、多くの資料・写真で紹介しました。



マキキ聖城基督教会1/33模型



25周年 記念展示 「自由民権記念館25年の歩みと蔵出し資料展」

◆会期 4月4日(土)～5月6日(水)
◆会場 1階自由ギャラリー

過去の展示会ポスターや刊行物、制作映像などで25年を振り返るとともに、これまでに、収集してきたものの中から、日頃は公開していない資料を展示し、1320名の方にご来場いただきました。

会場では、来場者の方々に展示資料にちなんだクイズを出題し、全問正解者の中から抽選で80名様に25周年記念グッズをお送りしました。あわせて、展示会ポスターの人気投票を実施し、467名の方に投票いただきました。

その結果、第一位は「手塚治虫展」1991(平成3)年度企画展、第二位は「日本の名城展」1994(平成6)年度企画展、第三位は「明治の女性展」1996(平成8)年度特別展に決まりました。

「手塚治虫展」ポスター



昭和5年、総理大臣浜口雄幸が東京駅で狙撃された際に着用していた背広

25周年記念グッズ



- 出されたクイズをいくつか紹介します。皆さんも挑戦してみてください。答えは最後のページに載せています。
- 坂本龍馬が「船中八策」を考えたと言われる土佐藩船の名前は？
① 朝顔丸 ② 昼顔丸 ③ 夕顔丸
 - 「自由」の文字をデザインに取り入れた「自由な私」を描いた芸術家は？
① 岡本太郎 ② 浦島太郎 ③ 山田太郎
 - 板垣退助晩年の肖像写真が使われた紙幣は何円札でしょう？
① 百円札 ② 五百円札 ③ 千円札



5月9日(土)のオープニングセレモニーでは、黒田朔実行委員会会長、関係者、ゲストからの挨拶・祝辞の後、テープカットが行われました。

続いて、同志社大学・同志社女子大学卒業生グループ「よさ朗OB・OG」の皆さんによるよさこい鳴子踊り、「ルアナと楽しい仲間たち」の皆さんによるフラダンスが披露され、大いに盛り上がりました。

また、関連事業として、5月16日(土)に紙芝居と歌のイベント「きてきて！聞いて!! 人形大使、青い目の人形の歌とお話」、5月23日(土)は記念講演会、6月21日(日)にはハワイ移民の苦闘を描いた映画「山河あり」の上映会が催されました。



「ルアナと楽しい仲間たち」によるフラダンス



「よさ朗OB・OG」のよさこい踊り



紙芝居「青い目の人形エミリー」



「ハワイに高知城をたてた男

奥村多喜衛展」記念行事

●日時 5月23日(土) 午後2時～5時
●会場 1階民権ホール

第1部 講演

「楽園ハワイの天守閣

―建築としてみるマキキ聖城基督教会―

井上章一氏(国際日本文化研究センター教授)

第2部 対談

井上章一氏

黒田 朔氏(清和女子中・高等学校長、元マキキ聖城基督教会牧師)

司会 根川幸男氏(同志社大学嘱託講師、国際日本文化研究センター共同研究員)

◆第1部(講演要旨)

明治初期の1870年代にお城の天守閣にあやかった和洋折衷デザイン建築物がたくさん建てられていますが、なぜ、こんなものが出来たのかは、実は諸説あるけれども確たる記録は残っていません。

天守閣の歴史からすると、最初に天守閣を整えたのは織田信長で、彼が建てた安土城には7階建ての天守閣があり、その頃は天守閣を「天主」と書いていました。ちょうどその頃ポルトガル人宣教師が来ており、キリスト教を天主教とすることなどから、信長は宣教師から教会の成り立ちを聞いて天を守る閣をつくったのではないかという観念が出てきます。

明治の始めごろまでは、このような天守閣の根っこにはキリスト教があつて、一種の西洋建築であるという考え方は国民的規模で語られていました。そこから明治初期に洋風建築を注文された当時の大工棟梁たちは、西洋建築と



いけば天守閣だと考えたのではないだろうか、という説が唱えられるようになりました。

現在の学会では、キリスト教の天主とお城の天守閣の間にはつながりはないとされており、この説は受け入れられていませんが、奥村牧師がハワイに建てたマキキ聖城基督教会堂の事例から、1894(明治27)年にハワイに渡った奥村の頭の中には、まだ明治初期のこれらの観念が残っていたからこそ、西洋的な建物を建てようというとき、天守閣を建てたのだといえるのではないのでしょうか。

◆第2部(対談概要)

黒田氏からは、奥村と同じマキキ聖城基督教会の牧師であった経験から、国外に出た人にとつての故郷(日本)は出た時のままの状態であること、奥村が高知城を模したお城を建てる理由として、「神はわが城なり」という聖書の言葉を引用し、天守閣こそ天主を祀るのにふさわしいと説明したことなどを紹介していただきました。

井上・根川両氏からも、ハワイでの建築事情やブラジルでの日本人移民が持ち込んだ文化事情など、自身の海外滞在経験から得たエピソードを織り交ぜたやりとりが行われ、終始和やかな雰囲気の中での、大変楽しい対談となりました。



25周年イベント(秋・冬)

自由民権講座 ～ホンモノの夜学会 2015～

昨年度、ご好評をいただいた本講座を今秋も開催します。今回は土佐の代表的な民権家の政治思想を中心に考えてみます。講座は5回シリーズですが、各回ごとの受講も可能です。お申し込みは9月30日(水)までに当館へ。但し、座席に余裕のある場合は各回の前日まで受付いたします。

参加費無料

要申込

- 第1回 10月7日(水) 植木枝盛 ～民権思想と憲法案
- 第2回 10月14日(水) 坂崎紫瀾 ～民権思想の大衆化
- 第3回 10月21日(水) 馬場辰猪 ～学者職分論
- 第4回 10月28日(水) 中江兆民 ～『三酔人経綸問答』を読む
- 第5回 11月11日(水) 坂本直寛 ～国家本質論

●会場 1階研修室 ●講師 館長 松岡信一

●時間 18:30～20:00

25周年記念展示

「人物と風景で辿る土佐の面影」

なつかしい写真、おもしろい写真をパネルで紹介します。会期:10月17日(土)～11月23日(月・祝) / 1階自由ギャラリー

第16回社会科自由研究作品展

市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示。会期:1月23日(土)～2月25日(木) / 1階自由ギャラリー

自由民権記念館友の会 映画上映会

高知近代史研究会第84回研究会

「100年の謎 大逆事件は生きている」90分 / 2012年

大逆事件とはなんだったのか

国家と司法、国家と人権、国家と私たち…それは100年を経てもなお私たちの胸に謎のように重い問いとして残り続けている。

上映日:1月23日(土) / 1階民権ホール / ①13:30～ ②15:30～
チケット:1,000円(11月中旬より発売予定)

今年八月一五日、太平洋戦争の終戦七〇年目を迎えた。太平洋戦争は、国内外に悲惨な結果をもたらした。日本人戦没者は約三一〇万人、アジアでの犠牲者は推計約二〇〇〇万人とされている。

また、昨年は第一次世界大戦の開戦から一〇〇年目だった。第一次世界大戦（一九一四年―一九一八年）は、世界に未曾有の規模の犠牲と破壊をもたらした。戦死者は約九〇〇万人、負傷者約二二〇〇万人に達した。大きな破壊力をもった新しい機械化兵器（戦車・航空機など）の本格使用による、大量破壊、大量殺戮の結果だった。

大戦終結後、そのあまりにも大きな犠牲と破壊から、大戦への深刻な反省と「平和の誓い」「不戦の誓い」が世界の多くの人々の間に広がった。そして、世界大戦の再発を防止するため、国際連盟が創設された。また、「国家の政策の手段としての戦争を放棄する」ことを定めた不戦条約が、世界の主要な国々によって締結された。

日本も国際連盟の常任理事国となり、不戦条約にも調印している。昭和初期、浜口雄幸首相（民政党内閣）は、国際連盟を重視し、「戦争放棄を永遠に遵守する」との閣議決定談話を発表した。

国際連盟は、国際紛争の平和的解決を加盟国に義務づけ、それに反する戦争を原則的に禁止した。そして、その違反にたいしては共同の制裁処置を定めた。それは、史上はじめての、世界レベルにおける集団的安全保障のための国際機関だった。

浜口は、この国際連盟の存在を軸に、それを補完するワシントン海軍軍縮条約、中国の領土保全と門戸開放に関する九カ国条約、不戦条約、ロンドン海軍軍縮条約な

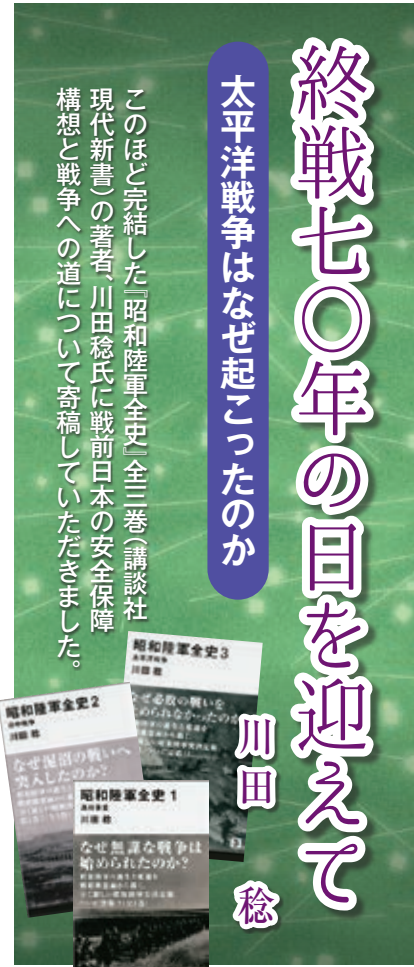
ど、多層的な多層的な条約網の形成によって国際的な平和維持システムを意識的に構築しようとした。もちろん浜口も当時の国際連盟が、安全保障のための機構として十全でないことは承知していた。だがそれは連盟を補完する多層的な条約網によってカバーできると判断していたのである。

そのような多層的な条約網のなかでも、浜口は、とりわけ九カ国条約の意味を重視していた。それは、東アジアをめぐる国際紛争を防止する役割をもつと考

終戦七〇年の目を迎えて

太平洋戦争はなぜ起こったのか

このほど完結した『昭和陸軍全史』全三巻（講談社現代新書）の著者、川田稔氏に戦前日本の安全保障構想と戦争への道について寄稿していただきました。



えられていたからである。

だが、それにもかかわらず第二次世界大戦が起こった。戦没者は、軍人・民間人をあわせて、推計六〇〇〇万人から八五〇〇万人とされている。殺戮と破壊が、前回の戦争を数倍上回る規模でおこなわれたのである。しかも、子供や女性を含めた非戦闘員の犠牲者が、膨大な数となった。

太平洋戦争は、この第二次世界大戦の環境でもあった。その太平洋戦争は、なぜ、どのようにして起こったのだろうか。

拙著『昭和陸軍全史』は、そのような問題意識で執筆した。

太平洋戦争開戦時、日本の政治・軍事を主導していたのは陸軍だった。また満州事変以降、日中戦争を経て、太平洋戦争に至る歴史のプロセスの主動因となったのも、基本的には陸軍だった。

したがって拙著では陸軍に焦点をあて、太平洋戦争への道とその帰結を明らかにすることを意図した。とりわけ、昭和戦前期に陸軍をリードした、永田鉄山、石原莞爾、武藤章、田中新一の四人を取り上げ、彼

らの戦略構想、彼らが何を考えていたのかを検討した。

四人はすべて昭和初期に結成された陸軍中堅グループ「一夕会」（会員約四〇名）のメンバーで、満州事変は一夕会によって周到に計画されたものだった。一夕会は満州事変によって陸軍の実権を握り、それまで政党政治に協力的だった陸軍の性格を大きく転換させる。これ以後陸軍が組織として政治化し、政党政治を打倒して、政治の実権を握るようになっていく。

この陸軍内での権力転換と陸軍の性格

変化が、その後の太平洋戦争への道の起点となった。その一夕会の理論的中心人物が永田鉄山であり、彼と連繫して満州事変を起こしたのが石原莞爾だった。その後一夕会は、皇道派と統制派に分裂し、統制派を率いた永田は、両派の抗争のなかで暗殺される。その永田の遺志を継いだのが武藤章で、日中戦争時には陸軍幕僚の中心人物となり、事実上陸軍の政策を主導する（その間に石原は武藤と対立して失脚）。

太平洋開戦時に陸軍をリードしていたのは、東条英機首相兼陸相、武藤章軍務局長、田中新一作戦部長だった。三人とも統制派系で永田の影響を受けていた（東条も幕僚時には一夕会員）。田中は武藤と親しい関係にあった。東条の政策判断は武藤・田中の戦略構想によっており、彼らのリードで日本は太平洋戦争へと進んでいく。

安保法制問題に揺れる現在、あらためて昭和戦前期、当時の日本を主導していた人々の考え方を、詳細に検討していく必要があると感じている。

その点からして、先の浜口の構想における国際連盟を補完するものとしての九カ国条約の位置づけは、極めて興味深い。

九カ国条約（米英日仏伊中ほかにより締結）は、現代のNATOや旧ワルシャワ条約機構のような、域外の仮想敵に対するための集団的安全保障システムではない。それは、域外に仮想的を想定せず、いわば域内の安全を相互に保証しあう集団的相互安全保障システムだった。

現在の時点で、日本を含めたアジア・太平洋地域の安全保障を考える場合、この国際連盟と九カ国条約との関係は示唆するところが多いのではないだろうか。

（名古屋大学名誉教授）

平成27年度 夏休み子ども 歴史教室の報告



7月24日(金)、今年で19回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動の歴史を常設展示室の観覧やクイズ、歌、劇などで楽しく学び、郷土の歴史について知識を深めてもらうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学3年生までの121名が参加し、おおいに賑わいました。

運営にご協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」「劇団「笛の会」の皆さんありがとうございました。

朝早くから子どもたちの笑顔と元気な声が飛び交い、日頃は静かな記念館もこの日ばかりは活気に溢れていました。

受付を済ませて民権ホールに入ると班別の座席に座り開会式を待ちます。開会式のあと、「自由民権って、何？」という当館制作のビデオを鑑賞し、先生からの説明をしっかりと聞いた後、いよいよクイズラリーのスタートです。

クイズラリーでは、次の5つのチェックポイントがあり、各チェックポイントを通過すると、ラリーマップに民権家スタンプを押してもらうことができます。スタンプを5つ集めたらラリー完了です。各チェックポイントの内容は次のとおりです。

第1 チェックポイント

常設展示室の展示資料の中からヒントを探しクイズに答えます。ちょっと難しい問題もありましたが、みんな一生懸命に挑戦してくれました。



第3 チェックポイント



劇団「笛の会」のみなさんによる政談演説会を再現した芝居を観て、クイズに答えます。

当時はながらの迫力ある劇に驚き圧倒されながらも、子どもたちも聴衆の一人となつて、「そうだ！ そうだ！」とかけ声をかけたり、拍手をしたりして大いに盛り上げてくれました。

第4 チェックポイント



自由民権運動の時代に実際に作られ遊ばれていた「民権すごろく」遊びを体験し、「上がり」を競い合いました。

第5 チェックポイント



「高知県民謡協会」の皆さんの三味線と太鼓の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌います。生伴奏に最初は戸惑っていた子どもたちですが、民謡協会の皆様のご指導で元氣よく歌いきました。

出題されたクイズの一例

参加者全員がすべてのチェックポイントを通過した後、閉会式が行われ、今年の歴史教室も無事終了となりました。子どもたちはとてもマナーが良く、楽しく取り組んでいました。皆さんお疲れさまでした。(矢野 紫)

問1 自由民権運動で活躍した植木枝盛は、「○○は土佐の山間より発した」と言われるようにがんばろう」と、大勢の人に呼びかけました。この○○に当てはまることは、次のうちどれでしょうか？

① ゆめ ② 自由 ③ 希望

問2 「東洋のルソー」と呼ばれた民権家は誰でしょうか？

① 中江兆民 ② 馬場辰猪 ③ 片岡健吉

民権かぞへ歌 (植木枝盛作 一部ご紹介)

一つとせ 人の上には人ぞなき
権利にかはりがたいからは この人じやもの
二つとせ 二つとはない我が命
捨てし自由のためならば この惜しみやせぬ
三つとせ 民権自由の世の中に
まだ目のさめない人がある このあはれさよ
四つとせ 世の開けゆく其早やさ
親が子供に教へられ この悲しさよ
五つとせ 五つに分れし五大州
中にも亜細亜は半開化 この悲しさよ

◆新収集資料より

幸徳秋水等の集合写真

一九〇八(明治四二)年五月撮影

幸徳秋水書簡 和田三夫宛

一九〇八(明治四二)年十二月十七日

幸徳秋水は一九〇七(明治四〇)年十月、療養のため故郷中村町(現四万十市)に帰省し、翌年七月二〇日まで、新聞への執筆やクロボトキ『THE CONQUEST OF BREAD』(『麵包の略取』)の翻訳などで過ごしていました。

この間の五月二六日、岡山の社会主義者で秋水の同志であった森近運平が、見舞いを兼ねて訪ねてきました。そして同月二九日には公会堂で社会主義演説会を開催しましたが大荒れになっていきます。

六月二日付『土陽新聞』の報道では、聴衆五百人、中村警察署長以下十数名が臨場する中、発起人野安作郎の開会の辞に続き森近が演説、その最後に「国民の安楽を計るは財産の平均にありと絶叫するや否や臨場の島崎署長は治安妨害と認むる故中止解散を命ぜりと大喝一声」、そこで秋水等は談話会に変更しようとしたましたが、聴衆の一部が退場せず投石してガラス障子が破損するなどの事態となり、結局混乱の中解散を命ぜられ、その後秋水は自宅で「社会主義に関する談話をなせ

り」と伝えられています。

集合写真はそのころ中村町の写真館で撮ったもので、前列中央が森近です。彼も大逆事件で処刑されました。演説会発起人の野安作郎も写っていますので、この人たちが演説会の中心メンバーであったと思われる。(前列右安岡友衛 後列右から、柿内英雄、野並吉亮、野安作郎、幸徳武次郎)なお、この写真は秋水の遺著『基督抹



殺論』に貼られ、周りに撮影時期や人名が朱で記入されています。

書簡は、東亜同文会の和田三夫という人物に宛てたもので、金銭の支払やその猶予に関することを述べた後、「あと一千部を至急に印刷製本」してほしい「長くなる」と其筋之注意を引き着手困難となるので「禁止令出でざる今の中にこしらえて」おきたい、という内容です。

このころ秋水は、『麵包の略取』の秘密出版を進めていました。

一九〇八(明治四二)年七月十五日の森近宛はがきには「反訳は愈々出来上がった。一の中略一出版が一寸困難と思つて居るが書肆が引受けなければ自費でやる外はない」とあり、秘密出版を想定していたことが分かります。

大逆事件に連座した坂本清馬の『麵包の略取』刊行者としての思い出には「十二月の半ばであったか、ハッキリ覚えていないが『麵包の略取』の秘密印刷ができたという通知があった」。そしてひそかに「地方同志に予約販売をし、米国同志、及びロンドン図書館等に寄贈して、完全にその目的を達成」したとあります。同書の奥付は、発行一九〇九年一月三〇日、訳者兼発行者平民社、代表者坂本清馬であり、一月末に届け出たところ、やはり発禁となり、清馬は起訴され罰金三〇円となっています。

この書簡は、こうした『麵包の略取』秘密出版の事情を伝えているのではないかと考えられますがまだ確実ではなく、「東亜同文会 和田三夫」についての調査が必要となります。(筒井秀一)



拝啓

今朝は御訪致候
其節御話申上候
阿堵物は百五拾円
だけ差上候て
残金少々御猶予
願上度候右百五十
金は来十九日午
前中に使を以て
差上可申候間
御在宿願上度候

又毎度乍御手数
あと一千部を至
急御印刷製本
御命被下まじくや
成べく早く製本して
蔵し置かねば
長くなると其筋之
注意を引き着手
困難と相成可申に付
禁止令出でざる
今の中にこしらへて
置き申度候

右何卒
御願申上候
頓首
十七日正午
秋生
和田兄
侍史

赤坂溜池式
東亜同文会
和田三夫様

途中より
十七日

秋水生

高知出身の民権家が 展示されました。

東京の町田市立自由民権資料館では、土佐市出身の民権家で初代衆議院議長を務めた中島信行と、彼と結婚し演説や雑誌への寄稿により、当時の女性の生き方に大きな影響を与えた岸田俊子の2人の歩みが紹介されました。



出版物のお知らせ

11月末
発行予定

『自由民権記念館紀要 No.23』

「自由民権運動史への招待

—いま、なぜ自由民権運動史研究か—……安在邦夫
「土族の精神—土族・死族・死賊—」……松岡信一
「上田博信氏を偲ぶ」……大野充彦

500円(税込)

行事予定

8月22日(土)～10月4日(日)

25周年記念展示

「路面電車が走る街・高知 写真パネル展」

会場：1階自由ギャラリー

主催：(株)土佐電ビルサービス・自由民権記念館
共催：とさでん交通(株)・
高知の電車とまちを愛する会

9月19日(土)15:00～17:00

高知近代史研究会第82回研究会

テーマ 「土佐電鉄の今昔」

会場：1階民権ホール

報告者：山本淳一氏

(高知の電車とまちを愛する会副会長)

10月7日(水)18:30～20:00

要申込

自由民権講座 ホンモノの夜学会 2015

第1回 「植木枝盛—民権思想と憲法案」

※詳細は4ページをご覧ください。

10月12日(月・祝)13:30～16:00

★

友の会設立25周年

女性参政権70周年記念行事

第15回「県詞の日」記念講演会

演題 「男女平等を求める戦後の運動」

テレビ番組制作現場から

講師：吉峯美和氏(NHK「日本人は何をめざしてきたのか」第2回共同参画社会～女たちは平等をめざす～制作担当フリーディレクター)

会場：1階民権ホール 参加費：無料
(平成27年度ソーレいど事業)

10月14日(水)18:30～20:00

要申込

自由民権講座 ホンモノの夜学会 2015

第2回 「坂崎紫瀾—民権思想の大衆化」

10月17日(土)～11月23日(月・祝)

25周年記念展示

「人物と風景で辿る土佐の面影」

なつかしい写真、おもしろい写真をパネルで紹介いたします。

会場：1階自由ギャラリー

10月21日(水)18:30～20:00

要申込

自由民権講座 ホンモノの夜学会 2015

第3回 「馬場辰猪—学者職分論」

10月28日(水)18:30～20:00

要申込

自由民権講座 ホンモノの夜学会 2015

第4回 「中江兆民—『三酔人経綸問答』を読む」

10月31日(土)発9:00～着16:30

要申込

史跡めぐり「春野町・土佐市の
民権家の足跡を訪ねて」

公文豪氏(友の会幹事・高知近代史研究会
長)の案内で、細川義昌墓・中島信行生誕地・
西原清東頌徳碑ほかをめぐる。

参加費：4,300円程度(参加人数により変動)
集合受付：自由民権記念館 8:30～

※申込は当館内友の会事務局まで(定員あり)
雨天決行(暴風雨なら中止)

11月11日(水)18:30～20:00

要申込

自由民権講座 ホンモノの夜学会 2015

第5回 「坂本直寛—国家本質論」

11月28日(土)13:00開始予定～17:00

高知近代史研究会第83回研究会

第8回 四国地域史研究連絡協議会高知大会

テーマ 「四国と戦争」

基調講演

「埋もれた日清戦争、抗日東学農民戦争と
日本のせん滅作戦

—日本と朝鮮、歴史の史実と記憶—(仮)」

講師：井上勝生氏(北海道大学名誉教授)

●個別報告

小幡尚氏(高知海南史学会/高知大学)

「日清戦争と高知

—戦没者の問題を中心に—(仮)」

川島佳弘氏(坂の上の雲ミュージアム)

「日露戦争期における愛媛の学校林(仮)」

高田美穂氏(徳島地方史研究会)

「板東俘虜収容所の経済構造とドイツ社会

との関係に関する一考察(仮)」

和田仁氏(香川歴史学会)

「航空隊の基地・詫間と港町・坂出

—太平洋戦争と香川の町や村—(仮)」

会場：1階民権ホール

.....
予定は変更になる場合があります。詳しくは当館までお問い合わせください。

★は当館内友の会事務局にお問い合わせください。

◆2ページ25周年記念展示クイズの解答：1は③、2と3は①です。



自由のともじび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより vol.79

発行 2015(平成27)年9月1日 発行人 松岡信一

発行所 〒780-8010 高知市棧橋通4丁目14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306

自由のともじび (Vol.60から) がホームページでご覧いただけます。